本部派　熊本、佐伯、内海、（河野、[illegible]　戸田欠席）
非参加支部代表　篠田、井渕、田中（房）、古明地、清水　元、[illegible]
合計九名、

然し折角のこの統一小委員会も、非参加支部の固執[illegible]
入せざること』、『統一協議会の名を以て東交大会を[illegible]
』の二條件の為に何等纏るところなく散会に終った。
他方自動車部は十月十八日の部会に於て、現本部に[illegible]
の可否に就いて討議した。席上、植村貞雄、鈴木福太郎、加[illegible]
部、荒川タケ等は、二、三ヶ月分本部費納入大会参加の[illegible]
主張したのも、依然として謙らざる篠田、井渕等の無[illegible]
の主張に支配されて、自動車部としての最後的態度は[illegible]
自動車部の斯る強硬主張の前には、本部派の妥協的態度も、[illegible]
部の確立も何等の意義を持たなかった。

十九の統一小委員会は全く妥協の道を失った[illegible]
極に達した。篠田一派は自動部独立の意[illegible]
小委員会を解消して、その提唱以前の情勢に戻すべ[illegible]
茲に於て統一協議会小委員会設置以来約四ヶ月[illegible]東交[illegible]
を望み乍ら折衝に折衝を重ねた結果が再び決裂の[illegible]機に転落したの

である。

(5)　統一臨時懇談会の開催と内紛の解消

統一協議会は解消されて、全東交合同の希望は失せた。本部は十月二十日執行委員会を開いて、(イ)、統一懇談会決裂の顛末、並に臨時大会以後統一に協力したる經過を大衆に侵透せしむる為の[illegible]書発表の件、(ロ)、大会を二十七日頃迄延期すべき件、(ハ)、『大衆の要望を裏付ける一部幹部の排撃』を趣旨とする大会議案追加の件等を決議して、直接不参加支部大衆にも呼び懸けて定期大会決行を図った。本部の態度は定まった。之に対し自動車部は二十一日の部会に於て、大会不参加を決議、部の単独組合結成を主張して二十六日大会を持つべく計画した。電車部は翌二十二日再び拡大委員会を開いた。伊藤政一、田中房雄の両名は本部の定期大会参加を反對した。併し電車部の総意は本部支持である。直に大会参加の声明書を発表することとした。

然るところ、この席上田中、伊藤の前記二名は緊急動議として、『自動車部に對し大会参加勧奨の電車部単独交渉方』を提案した。